

## 成果指標設定調書

## 【成果指標の設定】

成果指標設定年度

令和2年度

市町村名	吉見町			
提案事業名	吉見百穴魅力再発見事業			
事業期間	令和2年度	～	令和2年度	
事業の必要性、目的	吉見百穴は、「見た目のインパクト」や「日本のカッパドキア」として注目を集め、外国人観光客の増加、テレビ番組で取り上げられるなど、魅力が再認識されてきています。この機会を逃すことのないように、施設の整備や多言語対応などに取り組み、イメージアップ、新規来場者及びリピーターの増加を図るため事業を実施するもの。			
成果指標	(成果を検証する指標) 新規来場者及びリピーターの増加(魅力再発見)			
	(成果検証の具体的な方法) 入場者を集計し、現状の数値と比較して増減数及びその要因を分析する。			
	(上記の指標を設定した理由) 事業目的としている新規来場者及びリピーターの増加を検証するため。			
	成果の目標値 年間来場者数			
	現状値 (1年10月現在)	59,063人	目標値 (4年3月時点)	65,000人
	(施設建設等の場合)			
	年間利用者数(目標)(人)		稼働率(目標)(%)	
住民への公表方法 及び特記事項	町ホームページ、広報紙において目標値を公表する。			

## 【成果指標と構成事業の関連性】

令和2年度 構成事業

構成事業名	概要・成果指標との関連性	事業費(千円)
① 観光トイレ整備事業	ハード ソフト 間接補 誰もが気持ちよく利用できるバリアフリートイレへと整備していき、施設のイメージアップ魅力の再認識を図る	21,000
② 多言語看板、パンフレット整備事業	ハード ソフト 間接補 多言語に対応したパンフレット等を作成することにより外国人観光客が訪れやすい環境をつくる。	1,000
③ 駐車場整備事業	ハード ソフト 間接補 遠方からの来訪者が安全で快適に駐車場を利用できるよう整備し、利用者の満足度の向上を図る。	1,300
④ 百穴絵画コンクール事業	ハード ソフト 間接補 吉見百穴を描くことにより、理解と認識を深め、次の世代に魅力を伝え郷土愛の醸成を図る。	100
⑤ 社会科見学コース案内事業	ハード ソフト 間接補 県内小学校の社会科見学コースとして位置づけ、成長の過程で多くの方と知り合いながら再訪問の機会をつくる。	150
	合計	23,550

## 【成果指標の達成見込み】

目標達成のための具体的な方策	魅力が再認識されてきている吉見百穴に来訪する観光客に、快適で安心して利用できるような対策を行いさらなるイメージアップを図る。
成果指標の達成見込み	整備された施設を利用してもらうことで、訪れやすい環境がつけられ魅力が再認識されうることにより、来場者の増加が期待できる。

(記入上の注意)

## 【成果指標の設定】

・住民への公表方法は具体的に記述すること

## 【成果指標と構成事業の関連性】

・提案事業を構成する各事業(構成事業)について次のとおり分類すること

「ハード」 施設建設等が中心の事業(ハード事業)。

「ソフト」 主に人的要素を活用した活動でハード事業以外の事業(ソフト事業)。

「間接補」 青年会議所、商工会議所・商工会、自治会、NPO等の公共的団体が実施する事業に対して市町村が補助金を交付するもの(間接補助事業)。

・事業費は補助金を要望する単年度の事業費のみ記入すること。また、間接補助事業の場合には、事業費の下に( )書きで、市町村の負担額又は補助額を記入すること。